

薬剤師の養成から専門性の確立まで

座長

日本薬剤師会副会長

安部好弘

福岡県薬剤師会副会長

高木淳一

2006年から薬学6年制がスタートし、15年が経過した。6年制課程では、将来どのような分野に進んだ場合にも共通して必要となる、薬剤師としての基本的な資質と能力を養成するべきであり、その上で、生涯にわたって常に研鑽し、社会に貢献することが求められる。

本分科会では、文部科学省高等教育局医学教育課と厚生労働省医薬・生活衛生局総務課担当官から講演いただく。今後求められる薬剤師としての資質について、薬学教育の中で薬剤師が果たすべき役割や国民から必要とされる薬剤師にはどのようなことが求められるか、国の立場から示してもらえるのではないかと。

その後、日本薬剤師会の高松登常務理事から「薬局薬剤師の生涯学習の展望」と題し、薬剤師会が進めている「研修シラバス」に基づく研修会の開催が、生涯学習に取り組んでいる薬剤

師の資質や専門性の向上に寄与していることについてお話しいただく。名古屋大学医学部付属病院薬剤部の山田清文教授・薬剤部長から「薬剤師の卒後研修」と題し、「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」結果を紹介。薬剤師の卒後研修の方向性について講演いただく。

京都大学医学部付属病院薬剤部の寺田智祐教授・薬剤部長から「日本医療薬学会における地域薬学ケア専門薬剤師制度の構築と運用」と題し、講演いただく。

薬剤師として当然必要な生涯学習、卒後研修、今年度から始まった地域薬学ケア専門薬剤師制度についても、皆さんと様々な意見を通して議論できれば有り難い。

この分科会を通して、皆さんが取り組むべき薬剤師の養成から専門性の確立に至る過程の中で、薬剤師法第一条の定めにある国民に対する薬剤師の任務をしっかりと担い、将来にわたって地域の保険・医療を守り、社会に貢献する薬剤師を目指して生涯学習に取り組んでいかなければいけないことを伝えることができれば幸いである。

(高木淳一)

分科会の見どころ
聞きどころ

関連記事

9～12、17～18ページ

薬剤師の臨床研究～着想から発表～

座長

日本薬剤師会常務理事

亀井美和子

千葉県薬剤師会薬事情報センター長

飯嶋久志

臨床研究に取り組む薬剤師は年々増えているが、その研究成果は果たしてエビデンスとして活用されているのだろうか？医療が研究と共に進展するように、薬剤師が関わる薬物療法や薬学的管理は、薬剤師が取り組む研究によって発展するはずである。しかし、薬学教育を担う大学での研究のうち、薬剤師業務に目を向けた研究はまだ少なく、薬剤師となるまでに臨床研究のノウハウを身に付ける機会は少ない。

日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会では、薬局薬剤師の臨床研究を推進するために、倫理審査体制の支援や全国研修会等を行っているが、「臨床研究に取り組む薬剤師をさらに増やしたい」という熱い想いで、本分科会を企画した。

まず、日本薬剤師会の宮崎長一郎副会長に「エビデンスに基づく薬剤師業務 現状と目指す姿」と題して、薬剤

師が臨床研究に取り組む必要性、薬剤師による臨床研究の活用状況等について講演していただく。次に、日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会の山本康次郎委員長に「薬剤師に必要な研究倫理について」と題して、研究活動をする上で知っておかなければならない研究者が守るべき倫理規範とその考え方についてお話いただく。

また、東京理科大学薬学部の鹿村恵明教授に「研究テーマの設定と研究計画の立案」と題して、主に薬局で行う臨床研究の進め方についてお話いただく。さらに、北里大学北里研究所病院の氏原淳副部長に「研究倫理審査について」と題して、2021年6月30日に施行された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の留意点と、倫理審査の手続き等についてお話いただく。最後に、福岡市薬剤師会の林田諭氏に「成果発表について」と題して、研究成果を発表することの意義等をご自身の経験を踏まえてお話いただく。

このシンポジウムにぜひ参加いただき、臨床研究を身近に感じていただきたい。

(亀井美和子)

医療ICTとこれからの薬局

座長

日本薬剤師会情報システム検討委員会副委員長

田代浩幸

福岡県薬剤師会常務理事

竹野将行

「ICT」とは、Information and Communication Technologyの略称で、「通信技術を活用したコミュニケーション」を表す。この技術は、IT産業や通信産業だけでなく、医療の世界においても積極的な活用が求められている。医療分野における加速するICT化によって、セルフメディケーション、オンライン服薬指導、服薬管理といった薬剤師・薬局の地域医療における役割の変化と、現在進められているオンライン資格確認、電子処方箋、PHR、EHRの今後について、各々の立場より4人の方に、最新の情報を交えて講演いただく。

基調講演として、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室の三浦明内閣参事官に、薬剤師・薬局を取り巻く環境の変化と、医療ICTを活用することでわれわれ薬剤師職能にどのような変革をもたらし、また国民からどのような期待をされているか、最新の

情報を交えながら講演いただく。

次に、日本薬剤師会の渡邊大記常務理事から、「データヘルス集中改革と薬局業務」と題して講演いただく。

オンライン資格確認等のシステム利用により、処方箋の電子化、処方情報や調剤情報を医療機関や薬局で共有することが可能となり、来年度に向け、加速化する医療ICTにおいて薬局では多くの情報が得られることとなる。どのように業務が変わっていくのかを見据えておく必要がありその一部を紹介していただく。

次に、厚生労働省保険局医療介護連携政策課の山下護課長から、マイナンバーカードの健康保険証利用と、保険者が構築した加入者の健康・医療情報の「私書箱」を、患者と医療者の新たな治療ツールとして活用すべく講演いただく。

最後に、保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS)の竹中裕三委員長からシステムベンダの視点より今後の動向について関連事項、電子処方箋の運用を行うにあたり想定される課題等について考察していただき、最後にシンポジストの方々と討論することとしたい。

(竹野将行)

JAPIC 医療用医薬品集 2022

2021年9月発売



- ◇ 国内流通全医療用医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします。
- ◇ 約45年の編集実績による信頼と使いやすさ。
- ◇ 2021年6月後発品まで収載。
- ◇ 第十八改正日本薬局方に対応。
- ◇ 一般名の五十音順で項目を配置し、先発品と後発品の効能・用法の違いを一目で把握できます。医薬品の選択にご活用下さい。
- ◇ 「薬剤識別コード一覧」を収載。
- ◇ 更新情報メールの無料提供(要登録)。
- ◇ CD-ROM付。
- ◇ 分冊にて制作し、本文が見やすく調べやすくなりました(ケース入り)。

ISBN: 978-4-86515-182-4 B5判 約4,300頁(本文) 価格 14,300円(税込)

編集・発行 一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC

FAX 0120-181-461 TEL 0120-181-276

JAPIC 一般用医薬品集 2022 (要指導医薬品を含む)

2021年9月発売



- ◇ 医薬品医療機器総合機構(PMDA)・日本製薬団体連合会(日薬連)と連携し、最新の一般用医薬品添付文書を網羅的に収集。
- ◇ 付録として、
 - ・国内副作用報告の状況
 - ・重篤副作用疾患別対応マニュアル(アナフィラキシー他)
 - ・セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)対象品目一覧
 - ・リスク区分情報
 - ・ブランド名別成分比較表 等を収録。

ISBN: 978-4-86515-183-1 B5判 約2,000頁 価格 9,900円(税込)

発売 丸善出版株式会社

FAX 03-3512-3270 TEL 03-3512-3256

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/